

宗谷管内漁業士会報



舵

【宗谷管内漁業士会事務局】

宗谷支庁経済部水産課水産振興係
〒097-8558 稚内市末広4丁目2番27号
TEL: 0162-33-2510 (内線2614)
FAX: 0162-33-2632

第 5 号

平成16年 4 月30日

●平成15年度 宗谷管内漁業士会総会開催●

去る平成16年2月12日、宗谷支庁合同庁舎4階大会議室において、平成15年度宗谷管内漁業士会総会を開催しました。

- 議事(1) 平成15年度事業報告及び決算報告
議事(2) 平成16年度事業計画(案)及び
収支予算(案)
議事(3) 名誉漁業士の取り扱いについて
議事(4) その他

【平成16年度事業計画について】

自己研鑽及び管内漁業士間の連携はもちろんのこと、他地区の漁業士との交流を深め、連携を密にすることを目的に「各種会議、行事等への積極的参加」を中心に事業を実施していきます。

また、管内漁協青年部連絡協議会との連携

や水産指導所が実施する各種普及事業への協力を行っていきます。

【名誉漁業士の取り扱いについて】

平成15年度に平成14年度で任期が終了した指導漁業士の方2名が、宗谷管内漁業士会では初めて名誉漁業士として、北海道漁業士会から認定されました。

宗谷管内漁業士会では名誉漁業士を準会員とし、規約改正や名誉漁業士の取り扱いを定めました。

【その他】

事業計画において、平成17年に道外視察研修を行いたいとの意見が出され、詳細は定例会で決めることとなりました。

漁業士通信

●漁業士の認定について

平成16年1月22日の新規認定漁業士称号授与式において頓別漁業協同組合の和田清人氏と稚内漁業協同組合の深道昌広氏が青年漁業士として北海道知事から認定されました。深道青年漁業士は1月22日の新規認定漁業士称号授与式に出席できなかったため、漁業士会総会において河島会長より認定証等が手渡されました。



頓別漁協所属 和田青年漁業士



稚内漁協所属 深道青年漁業士

●漁業士の任期終了について

平成15年度に次の2名の方が指導及び青年漁業士の任期終了となりました。長期間に渡る漁業士としてのご活躍に心からお礼申し上げます。

- ・稚内漁協所属 石川指導漁業士 ・頓別漁協所属 新川青年漁業士

●名誉漁業士の認定について

平成14年度で指導漁業士の任期を終了した稚内の岡部好敏氏と鬼脇の網谷藤徳氏は、平成15年度に北海道漁業士会から名誉漁業士として認定されました。

地域漁業士会への助言・指導など、より一層のご活躍を期待いたします。

- ・稚内漁協所属 岡部名誉漁業士 ・鬼脇漁協所属 網谷名誉漁業士

平成15年度 宗谷管内漁業士会活動報告

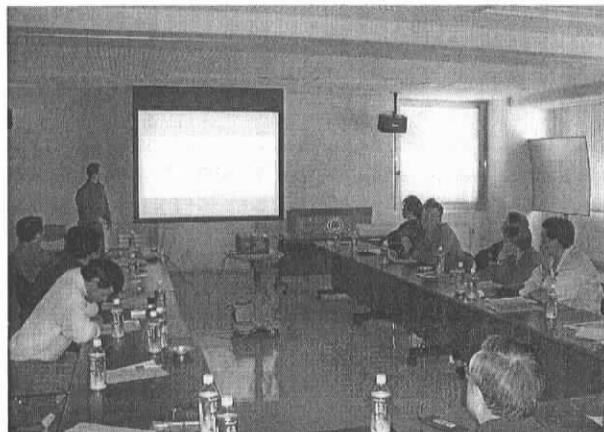
◎漁業生産技術研修会開催

平成16年1月27日利尻富士町役場大会議室において、利尻地区漁業士連絡協議会主催で研修会を開催しました。

研修会には、利尻島内の漁業士6名と漁協担当者及び各町関係者15余名が参加しました。

研修会では、利尻地区水産技術普及指導所主査小林雅行氏の「コンブの再生率について」、専門普及員伊勢論至氏の「ウニ類の増殖について」など、調査結果の発表を行いました。

コンブ養殖の種コンブ安定確保やウニ害敵駆除などの内容には、参加者全員が高い関心を示し、活発な意見交換が行われました。



◎宗谷管内漁業士会定例会開催

平成15年11月8日稚内水産ビルにおいて、宗谷管内漁業士会定例会を開催し、管内の漁業士8名が出席しました。

議題では、会報誌「舵」の掲載内容や、平成15年度に新認定される予定である名誉漁業士の取り扱いについて意見を交わしました。

また、2月に開催された漁業士会総会で要望のあった、北海道漁業士会会長斉藤誠氏による講演が行われました。演題は「ホタテ直販事業による取り組みについて」として、檜山管内の瀬棚町で斉藤会長が行っている、ホタテ養殖業で生産したホタテのインターネットを活用した販売や東京の三越デパートでの対面販売など、直販の活動内容について話がありました。講演終了後に意見交換が行われホタテ養殖や直販の内容などについて、活発な意見交換が行われました。

◎第8回北海道漁業士会オホーツク・太平洋会議開催

頓別漁業協同組合 指導漁業士 河島 隆八

第8回北海道漁業士会オホーツク太平洋会議が2月21日に釧路、宗谷、網走、根室、十勝管内の漁業士や漁業関係者が出席し釧路市で開催されました。

会議は、釧路支庁管内漁業士会山崎会長の挨拶に始まり講演、パネルディスカッションへと……

講演は、内閣府食品安全委員会事務局情報・緊急時対応課課長補佐の加藤久雄氏による「輸入水産物の安全性について」と北海道漁業士会会長斉藤誠氏の「漁業士活動と役割について」を演題として行われました。「輸入水産物の安全性について」は、国の制度や食の安全への取り組みなどについて話がありました。「漁業士活動と役割について」は、漁業士制度に関する考え方や漁業士の役割としては「檜山では漁業士会が主体となってサクラマス保護のため魚道清掃をした」などの活動事例が上げられ、地域漁業の振興などリーダーシップを担っていく必要があるなど話がありました。

パネルディスカッションは、コーディネーター小松漁業士、パネリスト内閣府加藤課長補佐、水産林務部武内技監、遠田漁業士、白糠漁協女性部森田部長ほか2名により、「安心・安全な水産物の提供について」と題して行われました。冒頭で、武内技監からは「道では平成16年度に愛食推進事業を展開」など支援策を考えているとの話があり、各女性部長からは、輸入サケの残留物質問題など主婦の立場から「安心・安全を大事にしている」との意見がありました。コーディネーターの小松漁業士からは、コンブは産地で殆ど消費されていないなど、地産地消に関して意見が出ました。



交流会においては、各地域の漁業士、漁業関係者との情報交換や親睦が深夜まで続き有意義な会議は終わりました。

平成15年度 漁業士活動先進地交流研修参加報告

鴛泊漁業協同組合
指導漁業士 神成一夫

日 程：平成16年 2 月 2 日～5 日 視察先：熊本県熊本市(沖新町)、大矢野町、本渡市
参加者(漁業士 8 名)：石狩・後志地区…阿部(石狩湾) / 渡島地区…福田(上磯町) / 留萌地区…金子(新星マリン)
宗谷地区…神成(鴛泊) / 網走地区…藤田(紋別) / 釧路地区…山崎(浜中)、新谷(釧路市)、能登(釧路市東部)

内 容

2月2日

○熊本県庁林務水産部(熊本県水産業の概要)

熊本県の沿岸漁業は有明海、不知火海、天草海の 3 海域に区別される。有明海の浅海干潟では、アサリ、ハマグリ等の貝類、クルマエビ、ガザミ等の甲殻類、スズキ、ボラ、コノシロ等の魚類を対象として、採貝、潜水器、釣り、小型定置網等の漁業とのり養殖業主体である。

不知火海では、湾奥部一体にクルマエビ、アサリ、ガザミが多く生息し、湾南部にかけて、タチウオ、マダイ、クロダイ等の魚類も多く、五智網、刺網、採貝、船びき網、打瀬網等の漁場と、干潟域でのノリ、島々周辺では、タイ、ブリ、クルマエビ、真珠等の養殖が盛んである。

天草海では、沖合でイワシ類、アジ、サバ類、シイラ等の浮魚及びエソ、ヒメシ、イトヨリ等の底魚が豊富である。沿岸部では、マダイ、フグ、ヒラメ、イサキ等多魚種にわたり、磯には、アワビ、イセエビ、ウニ等が生息し、まき網、刺網、釣り、小型底びき網、潜水器漁業等が行われている。入り江では、魚類、真珠等の養殖業が盛んである。

熊本県では、四季折々に豊富な種類の魚介類が獲れており、季節ごとに熊本を代表する最も美味しい時期の魚を「くまもと四季のさかな」としてパンフレットを作成して、売り込んでいる。

- 春のさかな (マダイ、コウイカ、キビナゴ、アサリ)
- 夏のさかな (クルマエビ、イサキ、アジ、ハモ、タコ)
- 秋のさかな (シイラ、タチウオ、モチウオ、ガザミ)
- 冬のさかな (ブリ、ヒラメ、コノシロ、ガラカブ)

2月3日

○熊本県水産研究センター

熊本県水産研究センターは、熊本県水産試験場(本場、大矢野支場、午深分場)と熊本県のり研究所を統合し、平成 2 年 4 月に発足。

- 栽培漁業及び資源管理型漁業の効果の確認。
- (マダイ、ヒラメ、クルマエビの放流、魚の混獲調査)
- アサリ、タイラギ等の資源調査。
- のり養殖の技術研究、のりの品質向上に関する研究。
- 漁場環境の調査、研究。
- 水産加工業の技術育成。



○大矢野物産館サンパール

大矢野町は、四方を海に囲まれた温暖な気候を生かした、酪農、漁業、クルマエビの養殖、パール柑を始めとする、果樹栽培がさかんな所。又数多くの花々も栽培。これらの産物を大矢野物産館では、直接販売及び全国への宅配を行っている。鮮魚、活魚コーナーでは、天草で獲れた新鮮な魚やクルマエビがいけすの中で元気に泳ぎ、ここではその日に水揚げされた魚を中心に直接販売及び宅配を行っている。

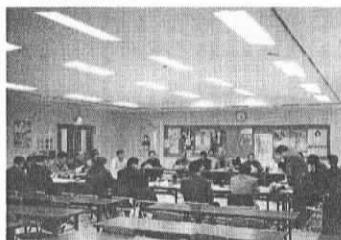
その他、土産品、特産品、果樹、野菜、花、レストラン、情報各コーナーがありにぎわっていました。

○株式会社プリミー訪問

沖合いけす養殖から加工、販売(国内、海外)。ブリ、マダイ、シマアジ、カンパチを1日 5 t~10 tを出荷。HACCP対応の加工場で衛生、品質管理のチェックをし、安全性の徹底につとめている。年間出荷量、約1,800 t(国内50%、海外50%北米)

○漁業士意見交換会(あまくさ漁協本所)

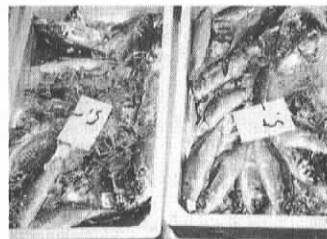
天草、有明、不知火の 3 地区の漁業士会が、各地域の特色を活かした活動を活発に展開してきた。漁協や地区の枠を越えて、県下全域で、漁業士の認知の向上、更に漁業士間の連携を深め、漁業士の資質向上を図るために平成15年 8 月に熊本県漁業士会を設立。



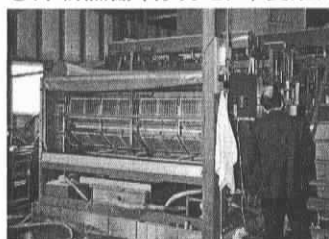
2月4日

○本渡地方卸売市場

朝 6 時に市場へ、市場に並ぶ魚の種類が豊富で、北海道へは捨てるような魚が全て販売対象のように見えた。朝 7 時より活魚のセリが始まり、その後 3 回に分けて、9 時まで鮮魚のセリがありました。



○沖新漁協(有明地区)養殖海苔漁業加工場



朝つみとりをして、水洗い水槽に入れると、後は全自動海苔製造機が自動的に海苔を作るには驚きました。1日、3万枚~4万枚 1時間、5千枚~6千枚

○沖新漁協海苔検査場

乾海苔各付規格表があり、検査員が1箱ずつ丹念に検査していた。平成14年度、沖新漁協、海苔養殖47経営体、金額 1,495,747,199円 枚数 160,102,700枚



最後になりましたが、同行していただきました水産林務部高田さん、指導連小野さんに感謝いたします。

